

【第1部】助詞の手がかり (Q1~Q20)

助詞 Q1. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、山に入りて、竹を取りけり。

ア 翁

イ 姫

ウ 帝

助詞 Q2. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、いみじう泣けば、翁、嘆きけり。

ア 姫

イ 翁

ウ 女房

助詞 Q3. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、文を書きて、隨身に持たせけり。

ア 中将

イ 隨身

ウ 女房

助詞 Q4. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、御簾を上ぐるに、姫、月を眺めりたり。

ア 女房

イ 帝

ウ 姫

助詞 Q5. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、たびたび文を遣れど、姫、返り事もせず。

ア 中將

イ 姫

ウ 翁

助詞 Q6. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

童、門をも開けて、奥へ走り入りにけり。

ア 童

イ 中將

ウ 女房

助詞 Q7. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

嫗、湯を沸かして、翁に飲ませけり。

ア 翁

イ 嫗

ウ 姫

助詞 Q8. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、門の前を過ぐるを、女房、内より招きけり。

ア 中將

イ 翁

ウ 女房

助詞 Q9. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、琴を弾くに、中將、立ち止まりて聞きゐたり。

ア 中將

イ 姫

ウ 帝

助詞 Q10. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、姫にかくと語りて、深く嘆きけり。

ア 姫

イ 姫

ウ 翁

助詞 Q11. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、格子を上げれば、姫、庭に下り立ちけり。

ア 女房

イ 姫

ウ 姫

主語 Q12. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将は、夜もすがら門の外に立てりけり。

ア 中将

イ 隨身

ウ 姫

助詞 Q13. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

童、文を持ちて走るに、犬、吠えかかりけり。

ア 童

イ 犬

ウ 翁

助詞 Q14. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、竹を切りて、籠を作りけり。

ア 姫

イ 姫

ウ 翁

助詞 Q15. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、文を読みもはてで、泣き伏しにけり。

ア 姫

イ 女房

ウ 姫

助詞 Q16. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、姫を呼べど、答へもせず。

ア 姫

イ 翁

ウ 姫

助詞 Q17. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

隨身、馬を引きて、門の外に控へたり。

ア 隨身

イ 中将

ウ 童

助詞 Q18. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、琴の音を聞きつけて、歩み寄りけり。

ア 姫

イ 中将

ウ 隨身

助詞 Q19. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、几帳を立つるを、姫、制しけり。

ア 女房

イ 姫

ウ 姫

助詞 Q20. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

童、戸を叩けば、嫗、出で来て、問ひけり。

ア 童

イ 嫗

ウ 翁

【第2部】敬語の手がかり (Q21~Q50)

敬語 Q21. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

夜更けて、帝、南殿に出でおはします。月を御覧ず。

ア 帝

イ 女房

ウ 中将

敬語 Q22. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、管絃の御遊びを催させ給ふ。中将、召されて、笛を仕うまつりけり。

ア 帝

イ 大臣

ウ 中将

敬語 Q23. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫の御もとに、女房あまた候ふ。昔物語などのたまへば、みな笑ふ。

ア 女房

イ 姫

ウ 童

敬語 Q24. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣、内裏に参り給ふ。帝に文を奉り給ふ。

ア 大臣

イ 帝

ウ 隨身

敬語 Q25. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、几帳のうちにおはす。姫、御前に参りて、事の次第を申す。

ア 姫

イ 姫

ウ 翁

敬語 Q26. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、大臣・隨身を率て、野に出でさせ給ふ。鷹を放たせ給ふ。

ア 大臣

イ 隨身

ウ 帝

敬語 Q27. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

御前に、童一人候ふ。仰せ言うけたまはりて、庭の花を折りけり。

ア 姫

イ 帝

ウ 童

敬語 Q28. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、姫の御簾のもとに参る。内より、和歌を詠み給ふ。

ア 中將

イ 姫

ウ 女房

敬語 Q29. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、急ぎ内裏に参りて、事の由を奏す。

ア 中將

イ 帝

ウ 女房

敬語 Q30. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、「誰かある」と問ひ給ふ。女房、「ここに侍り」と答ふ。

ア 女房

イ 姫

ウ 帝

敬語 Q31. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、姫君を年ごろ思ひわたる。ある日、文を奉り給ふ。

ア 姫君

イ 中將

ウ 隨身

敬語 Q32. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

尼君、北山に住み給ふ。童一人、仕うまつる。夕暮れには、経を読み給ふ。

ア 童

イ 翁

ウ 尼君

敬語 Q33. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、姫の噂を聞こし召す。「いかなる人ならむ」と思す。

ア 帝

イ 翁

ウ 姫

敬語 Q34. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中宮、女房を召す。やがて御前に参りて、御物語など聞こゆ。

ア 中宮

イ 女房

ウ 帝

敬語 Q35. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、物語に夜を更かさせ給ふ。人々みな退きぬれば、やがて大殿籠りぬ。

ア 人々

イ 帝

ウ 女房

敬語 Q36. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣、隨身を召して、「門を開けよ」と仰せけり。

ア 大臣

イ 隨身

ウ 童

敬語 Q37. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、悩み給ふ。女房、御湯を参らせ、御物語など聞こえけり。

ア 姫

イ 姫

ウ 女房

敬語 Q38. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、内裏に召されて参る。御衣を賜はりけり。

ア 帝

イ 大臣

ウ 翁

敬語 Q39. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、中宮の御方に参りて、姫の御事を啓しけり。

ア 女房

イ 中宮

ウ 帝

敬語 Q40. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、「明日なむ、必ず参り侍るべき」と申し給ふ。

ア 帝

イ 中將

ウ 隨身

敬語 Q41. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、「年ごろ、姫君をこそ深く思ひ給ふれ」と申す。

ア 姫君

イ 女房

ウ 中將

敬語 Q42. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣たち候ふ夜、月くまなし。やがて、南殿に出でさせ給ふ。

ア 大臣

イ 帝

ウ 隨身

敬語 Q43. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、返り事を書きて、女房に賜ふ。やがて御使ひに渡しけり。

ア 姫

イ 嫗

ウ 女房

敬語 Q44. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、夜の御殿にて笛の音を聞こし召す。「誰そ」と問はせ給ひて、中將を召しけり。

ア 帝

イ 中將

ウ 女房

敬語 Q45. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝の仰せ言たびたびなれば、翁、泣く泣く姫を内裏に奉りけり。

ア 帝

イ 翁

ウ 姫

敬語 Q46. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中宮、御格子上げさせ給ひて、雪を御覧ず。

ア 中宮

イ 女房

ウ 童

敬語 Q47. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將の御供に、童一人あり。夜もすがら、門のわきに候ひけり。

ア 中將

イ 童

ウ 姫

敬語 Q48. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣、「とくとく」とのたまへば、隨身、「承りぬ」と申す。

ア 大臣

イ 隨身

ウ 帝

敬語 Q49. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、「御文はいづら」と問ひ給ふ。女房、「ただいま持て参る」と申す。

ア 姫

イ 中將

ウ 女房

敬語 Q50. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、大臣の御もとに参り給ふ。年ごろの事ども聞こえ給ふ。

ア 大臣

イ 隨身

ウ 中將

【第3部】文脈・常識の手がかり (Q51~Q80)

文脈 Q51. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、姫に「明日、必ず参り来む」と言ひて、出でぬ。

ア 姫

イ 中將

ウ 女房

文脈 Q52. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、姫のもとに文を遣りけり。日暮るるほどに、返り事しけり。

ア 中將

イ 隨身

ウ 姫

文脈 Q53. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、別れの文を翁に見す。読みもはてず、涙にくれにけり。

ア 翁

イ 姫

ウ 帝

文脈 Q54. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、垣間見す。「世にかかる人もありけり」とぞ思ひける。

ア 中將

イ 姫

ウ 翁

文脈 Q55. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、童を召す。御階のもとに参りて候ふ。

ア 帝

イ 大臣

ウ 童

文脈 Q56. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將、ある姫を垣間見けり。かの人を、夜昼恋ひわたりけり。

ア 姫

イ 女房

ウ 中將

文脈 Q57. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

嫗、姫に「など、かくは物思はしげなる」と問ふ。「秋の夜は、ただ悲しくこそ」と答ふ。

ア 嫗

イ 姫

ウ 翁

文脈 Q58. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中將の御もとに、童あり。明け暮れ、まめやかに仕うまつる。

ア 童

イ 中將

ウ 隨身

文脈 Q59. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、心地例ならず、臥し給ひぬ。嫗、驚き騒ぐ。やがて、御湯を参らせけり。

ア 姫

イ 翁

ウ 嫗

文脈 Q60. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、年ごろの願ひかなひて、姫を妻に得たり。うれしと思ふこと限りなし。

ア 中将

イ 翁

ウ 姫

文脈 Q61. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、「姫君こそ、夜もすがら泣き給ひしか」と語る。

ア 女房

イ 姫君

ウ 姫

文脈 Q62. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、夜道に琴の音を聞く。「いかなる人の弾くらん」と思ふ。

ア 琴を弾く人

イ 隨身

ウ 中将

文脈 Q63. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣、隨身を召して「車寄せよ」とのたまふ。やがて門前に車を寄せけり。

ア 大臣

イ 隨身

ウ 童

文脈 Q64. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫に歌を詠みかけけり。ややありて、返しをなんしける。

ア 姫

イ 中将

ウ 女房

文脈 Q65. 次の文の傍線部「見えけり」の主語は誰か。

中将、姫の御簾のほとりに寄る。うちなる人、影ばかりほのかに見えけり。

ア 中将

イ 御簾の内の人（姫）

ウ 隨身

文脈 Q66. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、里にまかでけり。三日ありて、内裏に参りぬ。

ア 女房

イ 帝

ウ 大臣

文脈 Q67. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、「姫はいづこにおはす」と問ふ。「御格子のもとにおはします」と女房答ふ。

ア 翁

イ 女房

ウ 姫

文脈 Q68. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

僧、夜もすがら経を読む。暁になりて、鐘をつきけり。

ア 僧

イ 童

ウ 翁

文脈 Q69. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、翁を召して、御衣を賜ふ。喜びて、家に帰りけり。

ア 帝

イ 翁

ウ 大臣

文脈 Q70. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫の返り事を得ず。「わが身のほどこそ悲しけれ」とぞ思ひける。

ア 姫

イ 女房

ウ 中将

文脈 Q71. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

ある童、朝ごとに庭を掃く。その童、菊を一枝折りて、姫に奉りけり。

ア 姫

イ 童

ウ 翁

文脈 Q72. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、「まかり出でて、母を見舞はん」と申す。

ア 女房

イ 母

ウ 姫

文脈 Q73. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

嫗、姫に古き鏡を見す。つくづくと見入りけり。

ア 嫗

イ 翁

ウ 姫

文脈 Q74. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、夜更けて翁の家を訪ふ。喜びて、門を開けけり。

ア 中将

イ 翁

ウ 姫

文脈 Q75. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、重く思ふ。姫、夜昼かたはらを離れず、湯など勧めけり。

ア 翁

イ 姫

ウ 姫

文脈 Q76. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、夜更けて独りゐたり。「姫君はいかにおはすらん」と思ひやる。

ア 姫君

イ 女房

ウ 姫

文脈 Q77. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、雨の夜、姫のもとに訪ね来て、濡れながら門に立てり。これを聞いて、あはれと思ひけり。

ア 中将

イ 隨身

ウ 姫

文脈 Q78. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

夜深く、翁の家の門を叩く者あり。「誰そ」と問ひけり。

ア 叩く者

イ 翁

ウ 姫

文脈 Q79. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、東の国へ下るべくなりぬ。姫に暇乞ひして、暁に出で立ちけり。

ア 姫

イ 翁

ウ 中将

文脈 Q80. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

嫗、「夜も更けぬ。とく休み給へ」とて、格子を下ろしけり。

ア 嫗

イ 姫

ウ 女房

【第4部】入試型の総合（Q81～Q100）

総合 Q81. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、姫を内裏に召せど、つひに参らず。

ア 姫

イ 帝

ウ 翁

総合 Q82. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫のもとに文を遣る。されど、開けてだに見給はず。

ア 中将

イ 隨身

ウ 姫

総合 Q83. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、内裏に参りて、姫の事どもを奏す。あはれがらせ給ひて、御衣を賜ふ。

ア 翁

イ 帝

ウ 姫

総合 Q84. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫の家のわたりを過ぐ。内に琴を弾き給ふが聞こゆれば、立ち止まりて聞き入りけり。

ア 姫

イ 女房

ウ 中将

総合 Q85. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、姫に「中将殿こそおはしたれ」と申す。

ア 中将

イ 女房

ウ 姫

総合 Q86. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、翁の家に行幸せさせ給ふ。かしこまりて、御前に参り候ふ。

ア 帝

イ 大臣

ウ 翁

総合 Q87. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、月を見ては泣き給ふこと、たびたびなり。嫗、あやしと思ひて、「など、かくは嘆き給ふ」と問ふ。

ア 嫗

イ 姫

ウ 翁

総合 Q88. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫と物語して、夜更けて帰り給ひぬ。名残惜しと思す。

ア 姫

イ 隨身

ウ 中将

総合 Q89. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

大臣、帝に菊を奉り給ふ。いみじうめでさせ給ふ。

ア 大臣

イ 帝

ウ 隨身

総合 Q90. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、「あやしき夢をなん見給へつる」とのたまふ。

ア 女房

イ 姫

ウ 姫

総合 Q91. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中宮の御前に、女房ども候ふ。一人、御格子を上げければ、やをら歩み出でさせ給ふ。

ア 女房

イ 中宮

ウ 童

総合 Q92. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、御簾の外に候ふ。姫、扇を落とし給へるを、拾ひて奉る。

ア 姫

イ 女房

ウ 中将

総合 Q93. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝の御前に、大臣・中将候ふ。「いかに思ふ」と仰せらるれば、大臣、まづ奏す。

ア 帝

イ 大臣

ウ 中将

総合 Q94. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

帝、中将を召して、「姫の事、いかになりぬる」と問はせ給ふ。「いまだ承らず」と奏す。

ア 帝

イ 中将

ウ 女房

総合 Q95. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、物思ひに沈み給ふ。嫗、よろづに慰めきこゆれど、耳にも聞き入れ給はず。

ア 嫗

イ 翁

ウ 姫

総合 Q96. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

女房、「この由、やがて啓せん」とて、急ぎ立ちぬ。

ア 女房

イ 中宮

ウ 姫

総合 Q97. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫のもとに忍びて通ひけり。翁、これを知りて、内裏に参りて奏しけり。聞こし召して、驚かせ給ふ。

ア 中将

イ 翁

ウ 帝

総合 Q98. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

翁、姫の文を奏す。御覧じて、「あはれ」とのたまはず。

ア 翁

イ 帝

ウ 姫

総合 Q99. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

姫、暁に文を書きて、女房に賜へば、急ぎ中将のもとへ持て参りけり。

ア 姫

イ 中将

ウ 女房

総合 Q100. 次の文の傍線部の動作の主語は誰か。

中将、姫に暇乞ひして、暁に出で立ちぬ。御簾のうちには、袖を顔に押し当てて泣き給ひけり。

ア 中将

イ 姫

ウ 隨身

---